

(様式3)

農業研究成果情報

No. 845 (平成30年5月) 分類コード 02-09 熊本県農林水産部

亜熱帯果樹ライチ「篤姫」の加温栽培における生育特性

亜熱帯果樹ライチ「篤姫」は、11月下旬から最低温度を8℃に設定したハウスに導入することで、1果重は20g程度、糖度が19の高品質果実が7月中旬から収穫できる。

農業研究センター天草農業研究所 (担当者: 山添純歌)

研究のねらい

天草地域において、夏場の特色ある果物としてライチは観光との組み合わせで有望視されるが、低温に弱く、生育障害や枯死する恐れがあり露地での栽培は困難である。

そこで、良食味で外観のよい「篤姫」を用い、加温栽培での7月収穫に向けた生育特性を明らかにする。

研究の成果

1. 「篤姫」の加温栽培では4月初めから開花し4月中旬に満開となる(表1)。1花房中の開花は雌花と雄花が2～3回交互に開花する。なお、果実が3cm程度になる6月ごろ不受精果が落果する(データ略)。
2. 収穫始めは7月中旬、盛期は7月下旬、終期は7月末である。開花始めから収穫盛期までの期間は116日で、平均収穫期間は20日である(表1)。
3. 1樹当たりの収穫量は、樹容積が2.7m³のとき約1,500gである(表2)。
4. 収穫盛期の「篤姫」の1果重は約20g、果肉歩合は約66%、果実品質は糖度が19、酸含量は0.3mg/100ml程度である(表2)。
5. 11月下旬から4月まで加温温度8℃に設定したハウス内で、90Lポットに植栽した「篤姫」の生育相および管理は図1のとおりである。

普及上の留意点

1. 本試験は11月下旬から4月まで加温温度8℃に設定したハウス内で、90リットルポット植栽した樹を用いた。開花期には受粉のためにミツバチを放飼した。
2. ライチはカミキリムシの加害により枯死することがあるため注意する。また、カイガラムシやアブラムシが寄生した枝は弱くなり、着花しにくくなるため注意する。
3. 花粉が水にぬれると発芽能力がなくなるため、開花期の散水や防除は行わない。
4. 「篤姫」の収穫適期は果実全体が明るい桃色に着色した頃で、収穫適期を過ぎると糖度は下がり、果皮色は暗紅色になり外観が悪くなるため、適期収穫を行う。

表1 「篤姫」の加温ポット栽培における開花および収穫時期

収穫年	開花始め	開花盛期	収穫始め	収穫盛期	収穫終期	成熟日数 (日)	収穫期間 (日)
2015	4月8日	4月26日	7月13日	7月28日	8月3日	111	21
2016	3月29日	-	7月18日	7月24日	7月30日	118	11
2017	3月28日	4月11日	7月4日	7月25日	7月30日	119	26
平均	4月1日	4月18日	7月12日	7月26日	7月31日	116	20

注1)各年、十分に着花のあった3樹の平均

注2)成熟日数は開花はじめてから収穫盛期までの期間

表2 「篤姫」の加温ポット栽培における収穫量と果実品質

	樹容積 (m ³)	収穫量 (g/樹)	1果重 (g)	種子重 (g)	果肉歩合	糖度 (Brix)	酸含量 (mg/100g)
2015	1.9	1,414	19.7	3.1	65.2	18.7	0.26
2016	2.4	1,050	21.5	3.0	68.6	19.3	0.33
2017	3.9	2,003	18.5	2.9	64.6	18.8	0.31
平均	2.7	1,489	19.9	3.0	66.1	18.9	0.30

注1)「篤姫」5樹の平均 2015年で8年生



写真1 「篤姫」着果状況(左)と着色初期(右)

図1 加温ポット栽培におけるレイシの生育過程

月	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
生育相	出蕾期						開花期						生理落果			幼果肥大期						着色・収穫期						花芽分化期								
	新梢発生・伸長						新梢発生・伸長									新梢発生・伸長						新梢発生・伸長														
管理							ミツバチ放飼									せん定																				
	加温(最低8℃)															自然温度(換気扇温度 25℃)												加温(最低8℃)								